

ひだかの魅力 再・発・見

今回の「ひだかの魅力再発見」は、東京都立農業高等学校都市園芸科生徒たちの「ウドを後世に残していきたい」という思いから生まれたプロジェクトの一環で、市内のウド農家を見学した際の様子をご紹介します。

未来の農業を支える若者たち 日高市でウド栽培の秘密に迫る



市内のウド農家の説明を真剣に
聞く東京都立農業高等学校の生徒

生徒たちは活動内容を自主的に考え、限られた予算の中でも、身近にあるもので工夫を凝らして、ウドの栽培方法の研究に取り組んでいます。地下3メートルほど掘って作るウド室は、空気が入れ替わりづらく酸欠などが起こることがあります。生徒たちは、ウド室での栽培に伴う危険を解消しつつ、安定した品質でウドを栽培できるように、自分たちでウド室の代替設備を作り、生育データを収集して



▲ウド室の中で収穫体験をする生徒



▲ウドの成長を願って笑顔でポーズ

研究を進めています。

栽培してみることで見えてきた課題を解決するためのヒントを探していた生徒たちは、日高市ホームページでウドに関する情報を発見。このことがきっかけで、今回のウド農家の見学が実現しました。

当日は、生徒たちが自身の研究について説明した後、ウド農家から栽培方法を詳しく学び、さらに実際のウド室に入り収穫作業を体験しました。参加した9人の生徒たちは、「ウドを切る体験ができてよかった」「灌水の頻度についての話が参考になった」「自分たちの栽培環境との違いを肌で感じられた」など、感想を語り合い、充実した時間を過ごしました。

この若者たちの研究が、日高市の未来の農業の支えになることを期待しています。

ウドは日本原産の野菜であり、市の特産品の一つです。日高市産ウドは「軟化うどん」と呼ばれ、香りが高く、山ウドよりあくが少ないため、生でも食べることができます。「軟化うどん」は畑で収穫した後、地下のウド室へ植え付けを行います。3メートル以上もはしごを降りた先にあるウド室の中は、高さ1メートルほどしかなく、しゃがみこんで作業します。こうした手間と長い時間をかけて「軟化うどん」は栽培されています。

わが家の愛撮る

お子さんの写真を掲載しませんか？
電子申請で簡単に投稿できます。



鯉沼咲良ちゃん(0歳10か月)



西山隼人さん(6歳10か月)
速化さん(8歳0か月)

編集室

新年度から一か月がたち、半袖で過ごせる程の気温となりました。本年度より広報担当となり、初めての取材では、慣れない一眼レフに悪戦苦闘。結果撮れた写真は悪くないでき！苦労した分だけ感動もひとしおでした。これから日高市の魅力を余すことなく伝えられる記事を目指し、頑張っていきますので、よろしくお願ひします。(丁)